

1. 評価結果概要表

作成日 平成17年 8月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401269		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム 笑顔の村五番地		
所在地	札幌市手稲区曙1条1丁目5番10号 (電話) 011-685-6071		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年8月7日	評価確定日	平成19年8月22日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 3人, 非常勤4人, 常勤換算4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,200 円	その他の経費(月額)	15,000円、8000円(11~3月)	
敷金	有(円)	〇無	(暖房費別途)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 〇無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	6名	男性	1名	女性	5名
要介護1	2	要介護2	1		
要介護3	3	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 81.1歳	最低	71歳	最高	86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西成病院(内科、リハビリ科)、みき内科クリニック(主医)、ラビット歯科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市JR手稲駅北口から至近距離の住宅街に位置する当ホームは、近くに水公園や商業施設があり、JRやバスなど公共交通機関の利用も便利で立地環境に恵まれたホームである。運営法人は札幌市及び石狩市に4箇所のグループホームを展開し、いづれも1ユニット、利用定員6~9名の小規模ホームであるが、既存住宅を利用した少人数ホームとしてのノウハウを確立し、介護事業に熱心な法人役員や管理者のもとで利用者は明るくゆったりとした暮らしを満喫しており、極めて家庭的雰囲気のあるホームである。さらにホームは地域との関わりを大事にしており、町内会行事へ積極的に参加したり、利用者が周辺住民のホームパーティに招待されるなど、地域との交流も盛んである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で指摘された利用者の権利と義務の明文化は契約書に明示されており、窓の開閉等温度管理の適正化、安全な物品管理の徹底、介護計画の十分な見直しなど、職員全員の検討を経て、積極的な改善への取り組みがなされている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員が内容検討に参加し、ホーム長(管理者)が作成しているが、その内容を会議で報告し、問題点については改善の具体的方策を検討しながらより良いケアサービスに努めるべく取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、昨年10月からホーム関係者以外には、地域住民代表、包括支援センター職員等をメンバーとして開催され、ホーム概要や行事計画等の報告と、意見交換が行なわれている。推進会議の内容については、ホームの会議で職員に報告と検討がなされ、要望事項や意見などを職員全員が認識し、利用者のケアサービスと地域との交流推進に役立てるよう努めている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見、要望、苦情は家族訪問時に気軽に話してもらえ、雰囲気作りを心掛けており、訪問の少ない家族には電話やお手紙で要望等を把握している。把握した内容については、ホームの日常的ミーティングや会議において検討され、ホームの運営や利用者のケアサービスに反映させるようにしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは町内会に加入し、焼肉パーティや公園掃除など、町内会行事にも積極的に参加している。また、利用者が地域住民の家庭に招待されるなど、地元の方々との交流が深まってきている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム運営理念の中に地域住民との交流の下で利用者がその人らしい暮らしができるよう、支援する内容が記載されている。この理念のもと、地域との連携を深めるよう努力がなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念はミーティング等において確認され、職員の共有として認識されている。職員はこの理念にもとづき利用者のケアサービスを行なうよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入するとともに、焼肉パーティや周辺地域の掃除など町内会行事にもホームとして積極的に参加している。また、近隣住人からの家庭への招待もあるなど、地域との付き合いも深まってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者及び職員は、評価の重要性と意義を理解しており、評価に対しては全職員が参加しながら作成と評価結果の問題点改善に意欲的に取り組んでいる。	○	評価に対する理解と取り組みは積極的進められ問題はないが、さらに評価結果を踏まえた改善対策に、改善計画シートを利用すると、なお一層、目標と結果が明確になるため、シート活用の検討を望みたい。

札幌市 グループホーム 笑顔の村五番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町内会代表や包括支援センター職員を含むメンバーで平成18年10月から現在まで3回開催され、ホームの概要や運営状況等の報告と各種懸案事項についての意見交換がなされている。	○	推進会議の開催回数がやや少ないので、原則2ヵ月に1回開催が望ましい。また、会議テーマが重要となるので、ほかのグループホームにおける会議状況など情報収集しながらテーマの再検討が必要であろう。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、管理者会議など積極的に参加しているが、行政担当者との連携は、ホーム運営上の相談など電話にて連絡を取っている程度で、担当者と直接会い、話し合いを行なう状態には至っていない。	○	ホームの管理者等は、区役所担当者との接触機会を持ち、ホームの状況を伝えたり、行政側の情報収集やホームへの訪問を要請するなど、行政との連携強化が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、「ホーム便り」や電話連絡のほか、家族来訪時に職員が積極的に話しかけ、利用者の暮らしぶりを伝えている。さらに、ホームページから利用者の生活状況をパスワードで開き何時でも見るできるようになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は、来訪時の話し合いや電話、お手紙等で把握するようにしており、その内容を会議において全職員が協議し、ホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営法人は複数のグループホームを展開しているが、ホーム間の職員移動はなく、退職者も一部に留まっている。職員交代があるときは利用者へのダメージを最小限にとどめる対応策を検討するなど、利用者に対するきめ細かな配慮を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人材育成はOJTなど内部研修が主で、本社のスーパーバイザーによるアドバイスなども実施されている。外部研修へは管理者やケアマネなど一部職員が参加し、その内容を会議等で職員に報告している。	○	小規模ホームで職員数も少ないため、ローテーションにより、外部研修への派遣は難しい状況にあるが、できるだけ非常勤職員も外部研修参加の機会を設けるとともに、研修計画と研修記録の整備を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、管理者会議や関連会議に積極的に参加し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら情報や意見交換を行なっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者の家庭に出向き、家族や本人との話し合いから意見や要望等を把握し、さらに、利用者がホームに馴染んでもらえるようホームを見学してもらうなど、家族や利用者へ安心感を与えるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護する側としての一方的な立場を取らないよう配慮している。また、利用者からも学ぶことも有り、ホーム生活上の様々な作業などを一緒に行なって楽しみながら暮らせるよう心掛け、家庭的で親近感ある雰囲気になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情などから思いを汲み取り、一人ひとりの希望や意向を確認しながら本人本位の支援に活かしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族からの意見や要望も把握しながら利用者のアセスメントにもとづき、職員全員が参加しながらカンファレンスを行ない、利用者一人ひとりに対応した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月毎に定期見直しを行ない、利用者の状態変化に応じて、家族や医療機関とも相談しながら随時見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況や家族の要望に応じて、病院受診の送迎をタクシーを利用して行なったり、認知症ケアなどの相談も受けるなどの支援提供を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医療機関の全面的支援を受けているが、利用者の希望に応じてほかの掛り付け医の受診も行なわれている。協力病院は月2回の往診があり、健康診断もすこやか検診に加えて胃カメラ検診も実施するなど、健康管理に十分配慮されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化に対して、ホームは指針を作成しており、利用者の身体状況を見極めながら家族や医療機関との連携をとり支援の方向である。ただし、終末期については、ホーム側の体制問題もあり、現時点では医療機関に任せる方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーを損ねないような対応に配慮しており、訪問者記入帳も一覧性の様式からカード式に変更している。また、家族がホームページで利用者の暮らしぶりを見るにはパスワードが要るなど、プライバシー保護に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に対するケアサービスはホーム側の都合に合わせるのではなく、本人の気持ちを大事にし、それぞれの体調やペースに合わせた支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握しながら、食事メニューを検討し、食事準備や片付けを一緒に行なっている。食事時は職員と一緒に同じメニューの食事を取り、話し掛けをしながらゆったりと楽しい食事となるよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週2回程度を基本とし、土日と水曜日を除く午後に実施しているが、身体の汚れ状況に応じてシャワーも併用している。入浴を望まない利用者には話し合いによる納得のうえで支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることや趣味を活かせるように支援しており、食事の準備と片付け、手芸品づくり、歌やゲームの楽しみごとなどの実施によって日常の暮らしに張り合いや喜びを見出せるように努力している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に利用者の希望や天候状況を見ながら弁当持参で近くの公園を散歩したり買物に出掛けたりしている。さらに、ホーム行事の一環としてホーム合同の祭り、いちご狩り、花見、食事会など戸外に出る機会を設けている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間帯のみであり、センサーも設置されているが、現在は一人で外出する利用者が居ないので稼働を止めている。利用者の外出が有るときは職員と一緒に散歩に行くなどの対応を行なっている。		

札幌市 グループホーム 笑顔の村五番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの災害時マニュアル（火災、災害、救急）が整備されており、消防署の協力を得ながら消火避難訓練など年2回実施している。また、災害時に地域の協力を得られるよう運営推進会議で要請している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分、食事の摂取状況を毎日記録し、献立、食材を専門業者に依頼して栄養バランスを考慮した食事を提供している。朝食のみは職員が利用者の好みを把握しながら調理提供している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅改造型ホームのため、食堂や浴室などやや狭い箇所もあるが、6人定員の小規模のため日々の暮らしに不自由はない。共有スペースには季節の飾りや写真が貼られ、畳敷きの小上がりもあるなど、極めて家庭的雰囲気居心地良く過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はホームで用意したカーテン、照明器具、暖房器具、収納スペース以外は利用者の好みや馴染みの物品などの持ち込みが自由であり、気軽に安心してそれぞれの生活スタイルに合わせて過ごせるよう配慮がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。